

はじめに

浦安市自治会連合会
会長 上野 菊 良

平成 23 年 3 月 11 日(金)午後 2 時 46 分、宮城県石巻市沖((三陸沖)マグニチュード 9.0)、同 3 時 15 分、茨城県沖(マグニチュード 7.4)を震源とした大地震が発生し、歴史的にも未曾有の大災害となりました。

この震災では、浦安市も震度 5 強の揺れにより大きな被害を受け、中町・新町地域では、全域にわたる液状化により、道路の地割れや陥没のほか、上下水道、ガスなど、市民生活に直結するライフラインが寸断され、生活基盤に深刻な影響がもたらされました。

また、倒壊こそなかったものの、建物が傾いたり、塀が崩れるなど、多くの住宅に甚大な被害がありました。

このような状況下であり、余震もまだまだ続く中、私たちは液状化で大量に噴出した土砂の撤去に追われ、ライフラインの仮復旧が終了した 4 月 15 日までの約 1 か月間は、トイレや風呂が使用できない状況ではありましたが、個々の家庭や隣近所、さらに地域で協力しながらこの難局を乗り越えてきました。

現在、市内各所にて、ライフラインや道路、公園、学校などの本格的な復旧に向けた工事が進められています。これらの復旧に向けた作業、また、今後、さらに付加価値を付けた復興事業に向け、市民と行政が一丸となって取り組む必要があると考えています。

自治会連合会では、1,000 年に 1 度と言われているこの東日本大震災を受け、市内に 80 ある自治会が、地震直後からの活動の中で、何ができたか、何をやるべきだったかなど、それぞれの地域で行われた活動や課題を記録としてまとめ、後世に引き継いでいく必要があると考え、会議での意見交換や震災に関する活動アンケートなどを行いながら報告書を作成することとしました。

本報告書を作成するにあたり、浦安市からの情報提供や各自治会の協力、明海大学不動産学部からの資料提供など、関係機関の協力に対し感謝申し上げますとともに、本報告書が、浦安市の今後の防災対策に資するための一助となれば幸いと思っております。